

世 界 史

(問 題)

2012年度

〈H24063412〉

注 意 事 項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始してから、記述解答用紙の所定欄（2か所）には受験番号と氏名を、マーク解答用紙の所定欄には氏名のみを正確にでいねいに記入すること。
受験番号は正確にでいねいに記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. マーク欄ははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムででいねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	◎ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	◎ 悪い	○ 悪い

6. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 中国史に関する以下のA～Eの文章を読み、設問1～9について解答を一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 14世紀になると元は衰退し、各所で反乱が起こった。紅巾の乱の一武将だった朱元璋は穀倉地帯の江南地方を支配し、1368年に金陵で即位した。彼は大都に進撃し、元をモンゴル高原に退け、中国を統一した。君主独裁体制を確立するため、中書省を廃止してその属下の六部を皇帝に直属させ、都察院、五軍都督府を置き、こうして **あ** を分立させた。民衆支配として里甲制を実施し、里長や甲首に徴税や治安維持の責任を負わせた。

設問1 下線aの反乱に関して、中国史上の農民反乱はしばしば宗教と深く関わっているが、それにもっとも該当するのはどれか。

- ① 陳勝・呉広の乱 ② 黄巾の乱 ③ 八王の乱 ④ 黄巢の乱

設問2 **あ** に入る適切な語句はどれか。

- ① 監察権 ② 民政権 ③ 軍事権 ④ 三権

B 靖難の変で建文帝を破った燕王は、南京で即位すると北京に遷都し、江南と北京を結ぶ大運河を修復拡張した。対外面では、北方に対しては万里の長城を再修築し、タタールやオイラトを撃退してモンゴル勢力を一掃した。南方に対しては内紛で滅亡した陳朝の復興を口実にベトナムに進出した。南海地方に対しては鄭和に命じて大規模な遠征を行わせた。

設問3 下線bの大運河に関して、誤った記述はどれか。

- ① 大運河は隋の文帝が大興城（長安）と黄河を結ぶ運河を開いたことに始まり、煬帝のとき江南の杭州から涿郡（北京）に至る運河として完成した。
② 大運河に沿い水陸交通の要衝にある揚州に、唐代に最初の市舶司が置かれた。
③ 政治の中心地華北と経済の中心地江南を結ぶ大動脈として、隋以後の王朝においても大いに活用されていた。
④ 元では隋代の運河を改修し、新運河を開掘して補強し、さらに沿岸沿いに長江下流域から大都方面に至る海上輸送路も併用した。

設問4 下線cの陳朝に関して、正しい記述はどれか。

- ① 朱子学や国民文学が発達した。
② 宋軍を撃退し、大理やチャンパーに侵攻した。
③ モンゴル軍の侵入を三度も撃退した。
④ ベトナム最後の王朝である。

C 永楽帝の時代を頂点に、明はしだいに国力が衰退した。15世紀中頃、西北モンゴルのオイラトがモンゴル高原を統一して北辺に侵入した。同世紀後半にはタタールが内モンゴルを統一し、連年北辺に侵入して明に多大な被害を与えた。明は南方海上でも倭寇の被害に悩まされた。その防衛に莫大な支出を費やしただけでなく、東南沿岸地域が荒廃して経済的に大打撃を受けた。これによって明の国政は乱れた。

設問5 下線dのオイラトに関して、誤っている記述はどれか。

- ① 北元が減じると、モンゴル高原では東部のモンゴル諸部族と西部のオイラトが勢力を争った。
② エセン＝ハンのとき全モンゴルを統一したが、彼が部下に殺されると急激に衰えた。
③ 河北北部の土木堡で明軍を破って、正統帝を捕えた。
④ ダヤン＝ハンやその孫アルタン＝ハンを輩出し、チベット仏教を受け入れた。

設問6 下線eの倭寇に関して、誤っている記述はどれか。

- ① 倭寇は元代から登場し、武装した日本の密貿易者が朝鮮半島沿岸や中国江南の沿岸を略奪し、高句麗滅亡の原因ともなった。
- ② 室町幕府が成立すると、勘合貿易が開かれ、倭寇は減少した。
- ③ 16世紀になると、長江下流域から華南の沿岸地域で倭寇が再び急増した。
- ④ 明の海禁に不満をもつ中国人通商業者は、明の衰退に乗じて倭寇と結託し、密貿易や海賊行為を行った。

D 16世紀末、東北地方では建州女真の首長ヌルハチが女真族を統一し、後金国を建国した。その子太宗は国号を清に改め、国家の基礎を築いた。明が李自成によって滅ぼされると、順治帝は山海関を突破し、李自成を破って北京に入城した。次の康熙帝・雍正帝・乾隆帝の三代約130年間で、この時期に清はほぼ現在の中国の領土の原型を形成した。_f

設問7 清の皇帝とその治世における対外関係の組み合わせに関して、誤っているものはどれか。

- ① 康熙帝／ネルチンスク条約
- ② 雍正帝／キャフタ条約
- ③ 乾隆帝／南京条約
- ④ 光緒帝／北京議定書

設問8 下線fの領土形成に関して、誤った記述はどれか。

- ① 順治帝のとき、台湾に拠って最後まで抵抗した鄭成功の孫を滅ぼし、中国史上初めて台湾を領土に加えた。
- ② 康熙帝のとき、ロシアとの国境を外興安嶺とアルゲン川の線に画定した。
- ③ 雍正帝のとき、ロシアとモンゴル方面の国境を画定した。
- ④ 乾隆帝のとき、ジュンガル部を滅ぼした。

E 清はこの大領土を三層に分けて統治した。すなわち東北地方（満州）・中国本土・台湾は直轄領として直接統治し、モンゴル・青海・新疆・チベットは藩部として間接統治し、朝鮮・ベトナム・タイ・ビルマ（ミャンマー）を属国とした。藩部を管理する事務機関として理藩院が置かれた。このような清の支配体制も、乾隆帝の長い治世の終わり頃から破綻がみられるようになる。

設問9 Eの文に関して、誤っているものはどれか。

- ① 清は東トルキスタンの回部の反乱を平定して、ここを新疆とした。
- ② 朝鮮王朝は明の冊封を受けていたので清の建国を認めず、そこで清の太宗は朝鮮を攻めてこれを臣属させた。
- ③ 阮福映は西山朝を滅ぼし、全土を統一して阮朝を樹立し、清から大越国王に封じられた。
- ④ 清はダライ＝ラマなどの活仏を保護して、モンゴルやチベットの支配に利用した。

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

古代オリエントにおいては、さまざまな民族の興亡が生じたが、^①ついには古代オリエントのほとんどを支配する大帝
国が成立するに至った。

古代オリエントを初めて政治的に統合したのはアッシリア人である。アッシリア帝国は、前7世紀前半にはエジプトを含む全オリエントの主要部分を統一し、初の世界帝国といわれる。^②けれども、服属民族に対する過酷な支配のため帝国への反抗が生じ、前7世紀末に滅亡した。アッシリア帝国の滅亡後には、4王国が分立するに至った。^③

前6世紀の半ば頃にイラン人のアケメネス朝がおこり、キュロス2世のときに4王国のほとんどを滅ぼして帝国の基

礎を築き、また捕囚とされていたユダヤ人を解放した。次いでカンピュセス2世のときにエジプトを征服し、全オリエントの統一に成功した。さらにダレイオス1世のときに帝国は最盛期を迎え、ギリシアにまで侵攻し、ペルシア戦争を引き起こした。

勢力を誇ったアケメネス朝はアレクサンドロス大王の東方遠征により前330年に滅び、アレクサンドロス大王の没後には、セレウコス朝をはじめとするギリシア系の国家が誕生してヘレニズム文化が栄えた。

やがてセレウコス朝の支配下からイラン系遊牧民が自立してパルティアを建国し、セレウコス朝滅亡後にはメソポタミア地方でローマ帝国と勢力を争うにまで至った。パルティアを倒したのが、イラン人のササン朝である。ササン朝は、ローマ帝国・東ローマ帝国と抗争を繰り返しながら繁栄を続け、ホスロー1世のときに最盛期を迎え、イラン文明も発展した。けれども、7世紀半ばにイスラーム教勢力によって滅ぼされ、以降のオリエント世界はイスラーム世界となる。

設問1 下線部①に関し、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アッカド人は、シュメール人の都市国家を次々に征服し、メソポタミア最初の統一国家を樹立した。
- イ ヒッタイト人は、はやくから鉄製武器を使用し、バビロン第1王朝を滅ぼした。
- ウ カッシート人は、バビロン第3王朝としてバビロニアを支配したが、アムル人により滅ぼされた。
- エ アラム人は、内陸都市を結ぶ中継貿易に活躍し、その文字はオリエント世界の多くの文字の源流となった。

設問2 下線部②に関し、前8世紀末よりアッシリアの首都となった都市の名前をア～エから一つ選びなさい。

- ア エクバタナ
- イ ニネヴェ
- ウ クテシフォン
- エ スサ

設問3 下線部③に関し、これら4王国には含まれない王国をア～エから一つ選びなさい。

- ア カルデア
- イ リディア
- ウ メディア
- エ ミタンニ

設問4 下線部④に関し、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 彼ら自身はイスラエル人と称し、ヘブライ人という呼称は他民族による呼び名である。
- イ 前1500年頃にパレスチナに定住し、その一部はエジプトに移住したが中王国の圧政のためパレスチナに戻った。
- ウ 前1000年頃王国を建設し、ダヴィデ王およびその息子ソロモン王の下で栄えたが、その後、王国はイスラエル王国とユダ王国に分裂した。
- エ ヤハウエを唯一神とし、選民思想・戒律主義・メシア信仰などを特色とする、ユダヤ教を成立させた。

設問5 下線部⑤に関し、ダレイオス1世の事績について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 全領土を約20の州に分け、州長官としてサトラップを任命し、徴税と治安維持を主な職務とした。
- イ 「王の道」と呼ばれる国道をつくり、多数の宿駅を設けて、駅伝制を整備した。
- ウ 金貨・銀貨を鑄造し、税制を整備し、海上ではフェニキア人の貿易を保護して、財政基盤を固めた。
- エ ダレイオス1世の事績を刻んだベヒストゥーン碑文は、フランス人シャンポリオンによって解読された。

設問6 下線部⑥に関し、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 前500年、アケメネス朝の支配に対しイオニア諸市が反乱を起こしアテネがそれに援助したことをきっかけとして、ペルシア戦争が始まった。
- イ ミルティアデス率いるアテネ重装歩兵軍団は、マラトンに上陸したペルシア軍を撃破した。
- ウ テミстокレス率いるスパルタ軍は、テルモピレーで南下するペルシア軍を阻止しようとしたが、全滅した。
- エ アテネ・スパルタ連合軍は、プラタイアでペルシア軍を撃破し、ペルシア戦争におけるギリシア側の勝利を確定させた。

設問7 下線部⑦に関し、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ポリス中心主義がポリスの崩壊によって意義を失い、ポリスの枠にとらわれない生き方を理想とする世界市民主義の思想が知識人の間で生まれた。
- イ 哲学は個人の内面的幸福を説くようになり、精神的快楽を求めるエピクロス派や禁欲を重視するストア派が盛んになった。
- ウ エジプトのアレクサンドリアにムセイオンがつくられ、古代自然科学および文献学研究の中心となった。
- エ バクトリアは西北インドにヘレニズム文化を伝え、マウリヤ朝時代に最盛期を迎えるガンダーラ美術を生み出すことになった。

設問8 下線部⑧に関し、ササン朝の捕虜とされたローマ皇帝の名前をア～エから一つ選びなさい。

- ア カラカラ イ ウァレリアヌス ウ ユリアヌス エ テオドシウス

設問9 下線部⑨に関し、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア パルティア初期にはヘレニズム文化の影響が強かったが、徐々にイラン伝統文化が復活していった。
- イ ゾロアスター教はササン朝の国教とされ、北魏の頃中国に伝えられ祆教と呼ばれた。
- ウ マニ教がおこり西方では北アフリカ・南フランスに伝わり、南フランスで生じたアリウス派などのキリスト教異端派にもその影響が認められる。
- エ ササン朝美術の技術や様式は日本にまで伝えられ、法隆寺の獅子狩文錦や正倉院の漆胡瓶などがその代表例である。

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

16世紀のヨーロッパは、一般的に繁栄と転機の時代であったといわれる。ルネサンス、宗教改革、新航路の発見という大きな3つの流れが、この世紀を中心に大激流となってヨーロッパに押し寄せ、中世以来のヨーロッパの伝統的な社会やその世界観が大きく変貌することで、ヨーロッパはこれ以降、近世（近代）的な統治体制へと移行していった。

ルネサンスはすでに14世紀ころにイタリアからヨーロッパ全体に広がった文化運動であったが、15世紀末からのイタリア戦争などを契機に、イタリア半島の覇権をめぐる国際関係が緊迫化して、人と文化の交流や芸術・思想の動きがさらに活発になった。レオナルド＝ダ＝ヴィンチ、ミケランジェロなどの巨匠が活動のピークを迎え、フィレンツェ、ミラノ、ヴェネツィアなどの都市を中心に新たな展開が生まれ、16世紀には後期ルネサンスの時代に入ったといわれる。

また北ヨーロッパやフランス、イギリスにもルネサンス美術・文学が拡大していった。

③ 宗教改革は、それまでカトリック教会のもとで統一されていたヨーロッパ社会に大きな亀裂をあたえた。カトリックの腐敗堕落に対する批判から始まった16世紀のドイツのルターの改革はプロテスタント教会をつくり、ジュネーヴを中心としたカルヴァンの宗教運動も生じ、イギリスではこれを契機にイギリス国教会が成立した。一方、カトリックもプロテスタントに対抗して、いわゆる反宗教改革に取り組み、ヨーロッパ世界に強固な地盤を固めていった。

羅針盤などの航海技術の発展と地理学的な知識の増大によって、遠洋航海が可能になり、16世紀にはヨーロッパ人の世界進出が本格的に始まった。ヴァスコ＝ダ＝ガマ、コロンブスによる新航路発見ののち、16世紀のマゼランによる世界周航は、ヨーロッパと世界の一体化を推し進める契機となった。新大陸やアジアからもたらされた新しい資源や産物は、ヨーロッパ経済や社会全体を根底から変化させた。⑤

政治的に見れば、この16世紀の転換期に、ヨーロッパの多くの国では、支配領域を国境で囲い込み、国内の行政機構を整備して政治支配の強化に努め、外に対しては国王や君主が国を代表するような統治体制をとった。このような国家は一般的に A といわれ、近代的な国家のひとつのモデルとなった。

たとえば、⑥ スペイン、イギリス、フランスなどでは、絶対王政と呼ばれる強力な君主政国家が発展し、国王の下で、聖職者や貴族など旧来の特権的な身分階層と新興の市民層との協調をはかりながら、中央集権的な支配体制が築かれて

いった。他方、イタリアやドイツなど、元来統一的な政治体制の形成が遅れ権力の割拠が見られた地域では、共和政や君主政などの政治体制がとられた。17世紀前半に起きた三十年戦争は、こうしたヨーロッパ諸国の利害対立による広範囲な国際戦争へと発展したが、1648年のウェストファリア条約で終結し、ウェストファリア・システムと呼ばれる、勢力均衡に基づく近代的なヨーロッパの A 体制が確立された。

設問1 下線部①に関連して、次の1～4の説明の中から、14世紀のヨーロッパに起きた出来事や事象として、あてはまらないものを一つ選びなさい。

- 1 ローマ教皇庁が南フランスのアヴィニョンに移された。
- 2 イギリスのウィクリフが教皇や教会制度を批判して、聖書の英訳をはかった。
- 3 フランスのフィリップ4世が、初めて三部会を招集した。
- 4 スペインでは、イスラーム勢力最後の拠点であったグラナダが陥落した。

設問2 下線部②に関連して、フィレンツェ、ミラノ、ヴェネツィアについて述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 フィレンツェは、メディチ家支配のもとで、ルネサンスの中心となり、ボッティチェリなどの画家を輩出した。
- 2 フィレンツェには、16世紀にサン＝ピエトロ大聖堂が建立され、この設計にミケランジェロもかかわった。
- 3 ミラノは14世紀初めから15世紀半ばまで、ヴィスコンティ家によって専制支配された。
- 4 ヴェネツィアは第4回十字軍で主導権を握り、コンスタンティノープルを占領した。

設問3 下線部③に関連して、次の1～4の人物の中で、フランドル派の画家として、あてはまらない者を一つ選びなさい。

- 1 ルーベンス 2 ファン＝ダイク 3 ファン＝アイク兄弟 4 ワトー

設問4 下線部④に関連して、宗教改革や宗教戦争について述べた事項が古いものから時代順に並んでいるものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ドイツ農民戦争 → ユグノー戦争 → ナントの王令 → アウクスブルクの和議
- 2 ドイツ農民戦争 → アウクスブルクの和議 → ユグノー戦争 → ナントの王令
- 3 アウクスブルクの和議 → ユグノー戦争 → ドイツ農民戦争 → ナントの王令
- 4 ユグノー戦争 → ドイツ農民戦争 → ナントの王令 → アウクスブルクの和議

設問5 下線部⑤に関連して、新大陸、アジア、アフリカからヨーロッパにもたらされた新しい資源・産物と、そのヨーロッパへの影響や貿易などについて述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ジャガイモ、トウモロコシ、タバコ、トマトが新大陸からヨーロッパにもたらされた。
- 2 ラテンアメリカの銀山から大量の銀がヨーロッパに流入し、ヨーロッパの物価が上昇したが、このような物価騰貴は価格革命と呼ばれる。
- 3 17・18世紀のヨーロッパでは、武器・雑貨を西インドへ運び、奴隷と交換し、それを西アフリカに運んで砂糖などと交換する三角貿易が栄えた。
- 4 19世紀初めのイギリスは、インド産のアヘンを中国へ、中国の茶をイギリスへ、イギリスの綿製品をインドに運ぶ三角貿易を行った。

設問6 下線部⑥に関連して、スペイン、イギリス、フランスなどの絶対王政の展開について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 スペインは、ハプスブルク家出身のフェリペ2世の下で最盛期を築き、1571年のレパントの海戦では、オスマン帝国艦隊を破った。
- 2 イギリスは、エリザベス1世の下で中央集権化をすすめ、1588年にスペインの無敵艦隊を撃破した。
- 3 フランスは、フランソワ1世が国力の増強に努め、神聖ローマ皇帝カール4世とイタリア戦争で戦った。
- 4 フランスは、アンリ4世の下で、1589年にブルボン朝を樹立し、ルイ14世の時代に最盛期を迎えた。

設問7 下線部⑦に関連して、ドイツにおける国家形成について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 16世紀前半、ドイツ騎士団の団長がルター派に改宗し、領地を世俗化してプロイセン公国を建てた。
- 2 ホーエンツォレルン家がブランデンブルク選帝侯の地位を獲得し、プロイセン王やその後のドイツ皇帝を輩出した。
- 3 フリードリヒ2世はプロイセン王となり、軍隊を強化して、スペイン継承戦争、七年戦争を戦った。
- 4 普仏戦争末期の1871年に、フランスのヴェルサイユ宮殿で、ドイツ帝国の成立が宣言された。

設問8 Aに入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 法治国家
- 2 主権国家
- 3 啓蒙専制国家
- 4 全体主義国家

IV 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

とりわけ17世紀以降のヨーロッパにとって、古代ギリシアの思想や文化は、ヨーロッパ文明の源であり、理想とみなされたが、当のギリシアの地は、長きにわたってオスマン帝国の支配下にあった。その間、ギリシア人が帝国の支配に対して反乱を起こしたこともあったが、とくに①19世紀初頭のナポレオンの大陸制覇によってヨーロッパ各地でナショナリズムが鼓舞されると、ギリシアにおいても独立を求める本格的な動きが生じ、各地で武装蜂起が起こった。オスマン帝国は、これを徹底的に鎮圧しようと試みるが、東地中海への進出をもくろむ②イギリス・A・ロシアなどが介入したことで、ギリシアの独立は現実味を帯びることとなった。

ヨーロッパでは、保守的なウィーン体制のもと、③自国のナショナリズム運動や自由主義運動が抑圧されたが、ギリシアに対しては、国際的な勢力拡張の目的はもとより、異教徒支配からヨーロッパ・キリスト教世界にギリシアを取り戻すという意識から、④ギリシアのナショナリズム運動は広く支持された。1829年、Bがオスマン帝国と結んだ⑤アドリアノーブル条約で、ギリシアの独立が両国間においてまずは認められ、1830年のロンドン会議において国際的な承認を得ることになった。独立後のギリシアは列強諸国の介入のもと王政がとられ、バイエルン王国の若き王子オットーがオトン一世として即位した。オットーの父ルートヴィヒ一世もまた、ギリシアの古典芸術をこよなく愛し、ギリシア独立を積極的に支援した人物であった。他方、⑥ギリシア独立後のオスマン帝国は衰退の一途をたどっていった。

設問1 下線①について、以下の記述のうち明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ メフメト二世は、ビザンツ帝国を滅ぼし、ギリシアの地をオスマン帝国の支配下におさめた。
- ロ メフメト二世は、首都イスタンブールの建設にあたり、ギリシア人を移住させた。
- ハ ギリシア正教徒は、信仰を認められる代わりに貢納の義務を負わされた。
- ニ ギリシア正教徒は、自由な自治を認められる一方、イスラーム教への改宗は禁じられた。

設問2 下線②について、以下の記述のうち明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ オランダはスイス同様、ナポレオン支配から中立を保った。
- ロ 西南ドイツ諸邦はナポレオンを盟主にしたライン同盟に編入された。
- ハ ロシアと共に戦ったプロイセンは敗北により領土の半分を失った。
- ニ ナポリ王国とスペイン王国はナポレオンの従属国となった。

設問3 下線③について、18世紀末から19世紀初頭における地中海地域のイギリスの動向に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ イギリスは大西洋と地中海をつなぐ要衝であるジブラルタルを領有していた。
- ロ イオニア諸島はフランス革命戦争時のグレイ内閣によりイギリス領となった。
- ハ ネルソン艦隊はフランス軍を破り、ナポレオンのエジプト遠征を阻止した。
- ニ イギリスはアブキール湾の海戦の後、ロシア・オーストリアなどと第二回対仏大同盟を結んだ。

設問4 下線④について、ウィーン体制下で抑圧された各国の運動について、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ ドイツでは大学を拠点に自由主義運動が展開した。
- ロ イタリアでは秘密結社による革命運動が起こった。
- ハ スペインでは憲法制定を求める革命が勃発した。
- ニ ロシアではロマノフ朝復活を求める反乱が起こった。

設問5 下線⑤について、ギリシア独立に関心を寄せた政治家や文化人に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ メッテルニヒは、オスマン帝国支配の正統性を否定し、マルタとギリシアの独立をウィーン議定書に盛り込んだ。
- ロ 自由主義外交を展開したイギリス外相カニングは、ギリシア独立を支援し、イギリスの介入をけん引した。
- ハ 貴族出身のロマン派詩人バイロンは、義勇兵として独立戦争に参加するためギリシアに渡った。
- ニ オスマン帝国軍によるキオス島住民への残虐行為は、ドラクロワの絵画によって広く知られることになった。

設問6 下線⑥について、ギリシア独立の承認のほかに、オスマン帝国がこの条約で譲歩した事項について、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ ドナウ川の自由航行権
- ロ シチリア島の領有権
- ハ ダーダネルス・ボスフォラス両海峡の通航権
- ニ キプロス島の行政権

設問7 下線⑦について、オスマン帝国の衰退に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ ギリシア独立戦争で、ギリシア側についたエジプトは、1830年代に帝国からの独立が国際的に承認された。
- ロ クリミア戦争後、モルダヴィア・ワラキア（のちのルーマニア）の連合公国としての独立が事実上、認められた。
- ハ 1870年代のロシア＝トルコ（露土）戦争後、セルビアの独立が国際的に承認された。
- ニ 1878年のベルリン条約で、ボスニア・ヘルツェゴヴィナがオーストリアの管理下に入った。

設問 8 , に入る国名の組み合わせのうち、正しいものを一つ選びなさい。

- イ. A : ドイツ B : イギリス
ロ. A : ドイツ B : オーストリア
ハ. A : フランス B : ロシア
ニ. A : フランス B : イギリス

V イギリスとオランダ（英・蘭）は、歴史上、いくつかの局面で重要な関係を持ってきたが、17世紀における両国の友好関係と敵対（対立）関係について、次の語句（順序を問わない）を用いて、200字以上250字以内で記述しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

名誉革命

アンボイナ事件

ルイ14世

英蘭戦争

〔以 下 余 白〕